



文部科学省

令和7年度 文部科学省 現職日本語教師研修プログラム普及事業

「生活者としての外国人」に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	株式会社インターカルト日本語学校
事業名	生活者のための研修プログラム普及事業
事業実施期間	令和7年6月～令和8年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者108名中、研修修了者91名



■ 事業概要

研修報告の構成

- 事業全体の概要
- 各研修の概要
- 受講生からの評価
- 成果と課題



■ 事業概要

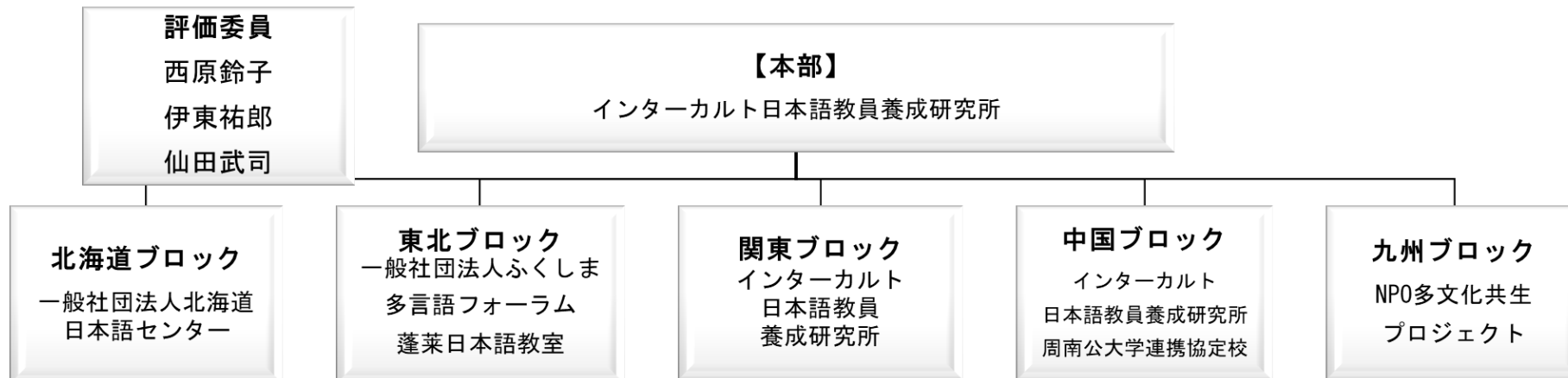
事業の目的

日本語を母語としない生活者としての外国人が、言語・文化の相互尊重を前提としながら日本語で意思疎通を図り、自立した社会の一員となるために必要な日本語教育の基盤を担う、専門性を有する「日本語教師初任者の研修プログラム」を全国に普及することを目的とする。



■ 各研修の概要

事業全体の体制



委員会

研修プログラム検討委員会

事業評価委員会

業務チーム

研修運営チーム

事務管理チーム



■ 事業概要

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任研修プログラム 全体の構成

研修プログラム	90単位時間	その他関連する取り組み
<p>★「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」（報告）内の「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修における教育内容に準拠。</p> <p>★「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力に準拠。</p> <ol style="list-style-type: none">1.生活者に関する日本語教育2.地域日本語教育3.地域の事例研究4.地域のICT5.多文化共生6.発表・振り返り <p>全18回・オンライン</p>	<p>テーマ：【日本語教師が地域で活動するためのネットワーク作り】</p> <ul style="list-style-type: none">・【北海道ブロック】「明日から使えるヒントが山盛り！ベテランから学ぼうスキル別の教え方」・【東北ブロック】 日本語学習支援ネットワーク会議 2025 in 福島「日本語でつながる、広がる」・【東京ブロック】 「地域で活動する生活者研修の修了生と話そう！」・【中国ブロック】 「日本語教室の未来、誰とつくる？」 — 地域と社会を編み直す、新しい日本語教育のかたち—・【九州ブロック】 「地域日本語教育×市民活動のはじめ方なにもものでもない私の想いをカタチに変える」	



■ 各研修の概要

『生活者としての外国人』に対する
日本語教師【初任】研修 について



■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修の目的、ねらい、研修の特徴

- ★「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」(報告)内の「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修における教育内容に準拠。
- ★「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力に準拠。

「生活者としての外国人」に対する日本語教育人材に求められる、

- ✓ 「地域における日本語教師の役割を理解する姿勢」
- ✓ 「地域で日本語を教える際の姿勢や態度」
- ✓ 「多文化共生に関する知識・態度」
- ✓ 「生活者としての外国人」の多様なニーズに対応するための「自力で授業が組み立てられる技能」
- ✓ 「臨機応変に対応できる知識と技能」
- ✓ 「コースデザインを組み立てるための知識・技能」

を獲得するための基礎力を育成する。



■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修スケジュール オンライン開催 90単位時間

- ✓ ・「講義」は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」（報告）内の「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」に準拠。
- ✓ ・「生活者としての外国人」に対する日本語教師初任研修に求められる資質・能力に準拠。

生活者に関する日本語教育

日本語教育を取り巻く現状と変化	特定非営利活動法人 日本語教育研究所 理事長 西原鈴子
地域の日本語教室における日本語教師の役割	国際教養大学 専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域 特命教授 伊東祐郎
地域での活動における「日本語教育の参照枠」	インターカルト日本語教員養成研究所所長 加藤早苗



■ 各研修の概要

地域日本語教育

「生活者」に関わる日本語教師の姿勢 ～学習活動から考える～	特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA) 理事・日本語教育コーディネーター 千葉市国際交流協会 地域日本語教育の体制づくり推 進事業総括コーディネーター 萬浪絵里
生活者としての外国人」のための教材・教具の リソースと著作権	凡人社 編集部編集長 渡辺唯広 凡人社 編集部主任 大橋由希
「生活者としての外国人」の“声”を聞く —“引き出す力”を支える聞き方と、言語教育の 新しい役割—	周南公立大学 准教授 立部文崇
日本語教育の参照枠」に基づく教室活動 —「生活Can do」・バックワードデザインを 理解する—	日本語サービスYOU&I 代表 国際交流基金日本語国際センター 客員講師 埼玉県地域日本語教育コーディネーター 関崎友愛
多文化共生のまちづくりと地域日本語教育	(公財)しまね国際センター 事務局次長 仙田武司



■ 各研修の概要

地域の事例研究

北海道の取組み 「北海道における日本語学習支援の取り組み」	一般社団法人北海道日本語センター理事 大井裕子 一般社団法人北海道日本語センター理事 阿部仁美
東北の取組み 「地域とつながる日本語教室の現場の話」	一般社団法人ふくしま多言語フォーラム理事 幕田順子 蓬莱日本語教室 副代表 佐々木千賀子
九州の取組み 「学習者のことばを引き出し、深くつながるための聞く力」	NPO多文化共生プロジェクト 代表 福岡県・地域日本語教育コーディネーター 福岡市・地域日本語教育施策アドバイザー 深江新太郎

地域のICT

日本語教育におけるICTの活用と日本語教師の役割	西南学院大学 言語教育センター長 山田智久
--------------------------	--------------------------



■ 各研修の概要

多文化共生

「難民への日本語教育
～さぽうと21での実践から～」

社会福祉法人さぽうと21 学習支援室
チーフコーディネーター 矢崎理恵

外国人保護者の言語課題(子育ての日本語)

日本語サービスYOU&I 代表
国際交流基金日本語国際センター 客員講師
埼玉県地域日本語教育コーディネーター
関崎友愛

何のために地域日本語教育をするのか?

武蔵野大学 グローバル学部
日本語コミュニケーション学科 教授 神吉宇一

「多文化共生と生活者支援における
日本語教師の役割～CINGAでの実践から～」

特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA)
コーディネーター 新居みどり

発表と振り返り

課題2 「学習活動の設計」発表
振り返り 日本語教師のこれから

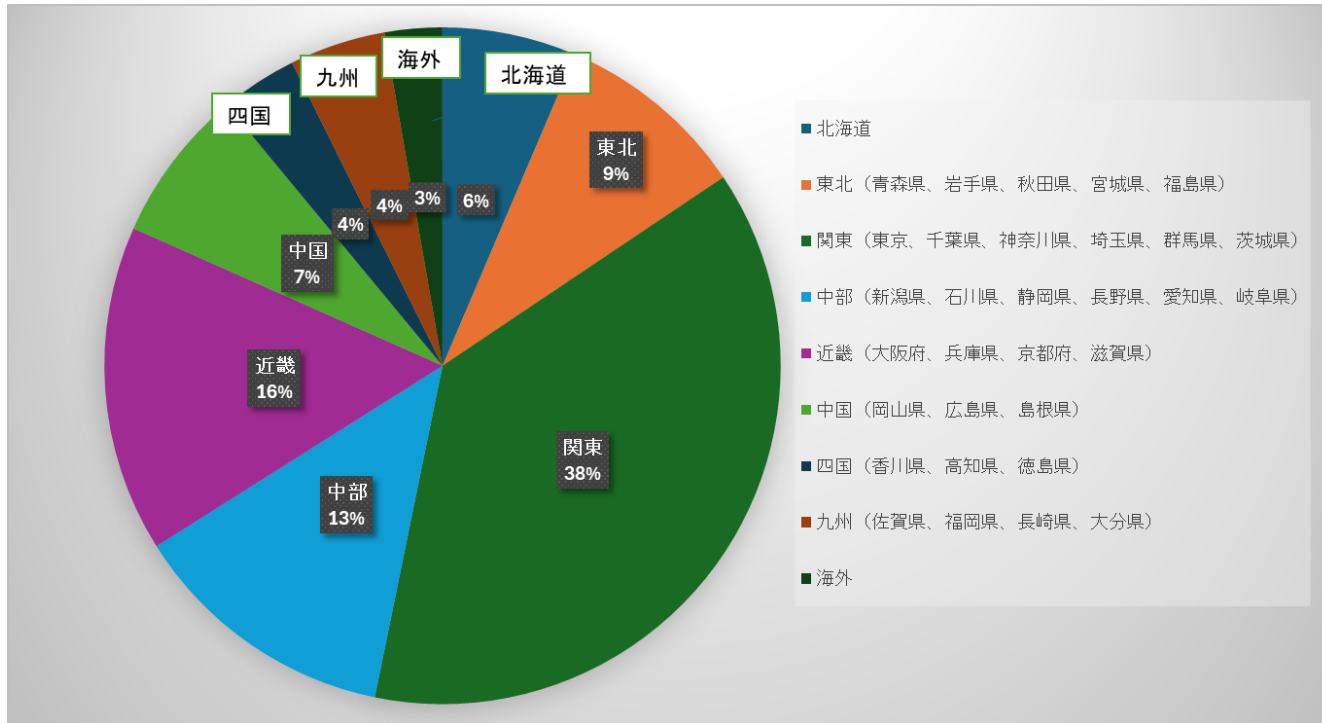
インターカルト日本語学校 内藤真穂
インターカルト日本語教員養成研究所 加藤早苗



各研修の概要

日本語教師【初任】研修 受講生の属性(全108人)

居住地域



所属

日本語学校
大学講師
国際交流協会
地域日本語教育コーディネーター
公務員
市役所職員
地域おこし協力隊
市役所職員
企業職員
社会福祉協議会
NPO法人
フリーランス
地域日本語教室

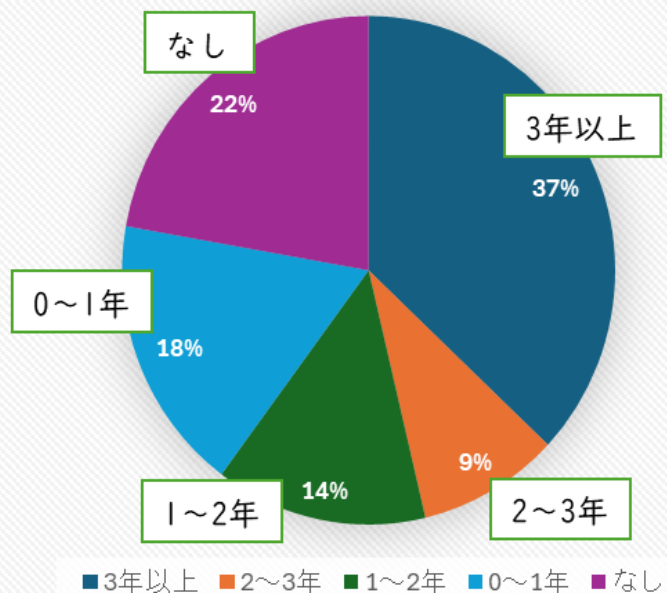
■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修 受講生の属性(全108人)

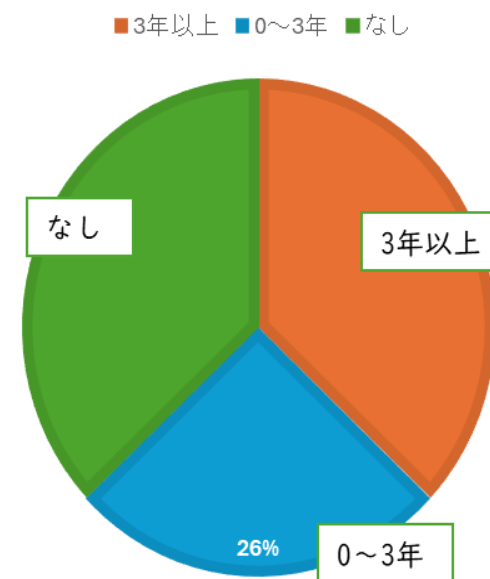
資格について

○受講者108人/有資格者105人(登録日本語教員40人)

日本語教育歴



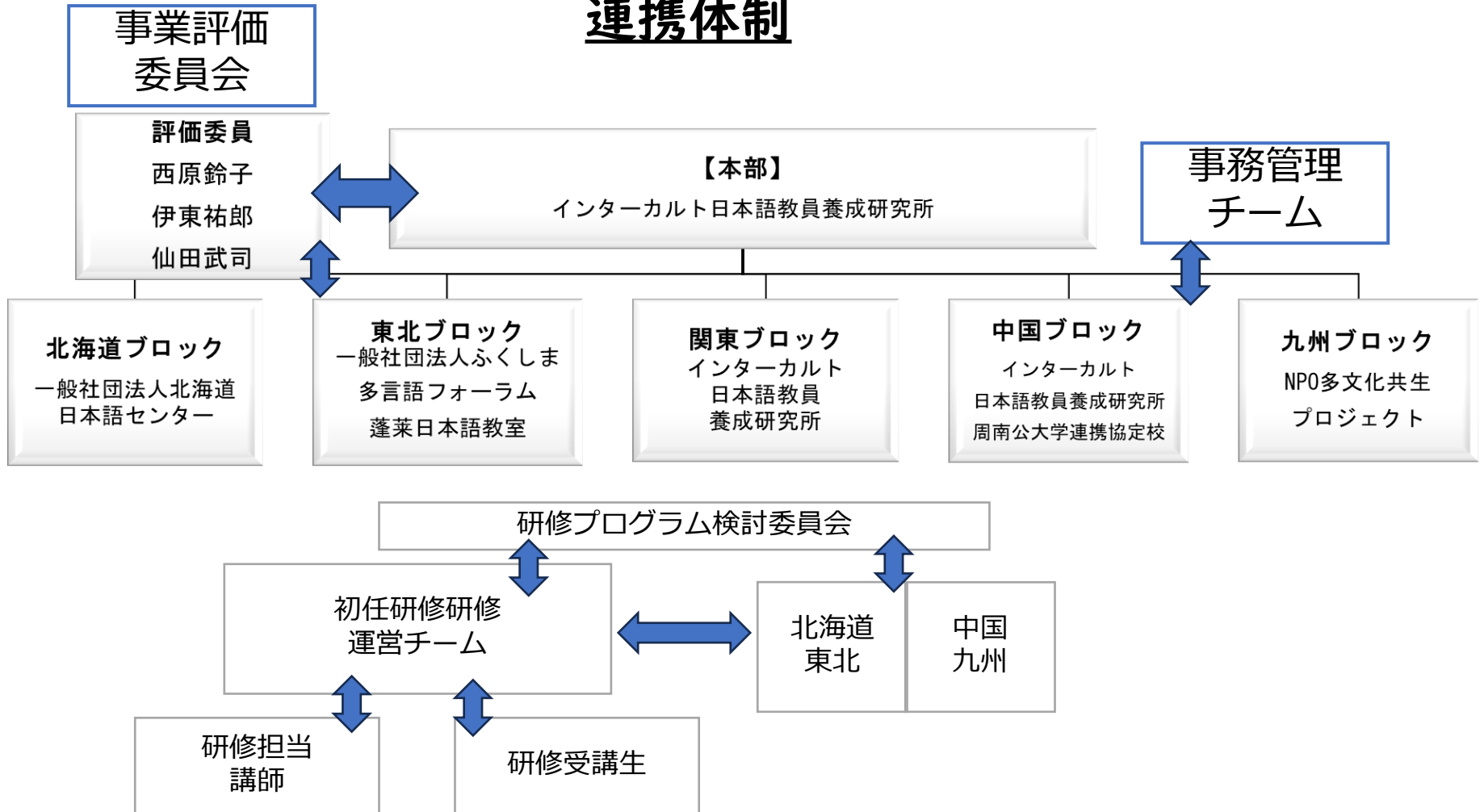
地域での教育歴





■ 各研修の概要

連携体制





■ 各研修の概要

初任研修修了者数・修了要件

91名修了/108名受講

○有資格者であること

(登録日本語教員、養成講座420時間修了または日本語教育能力検定試験合格、
大学で日本語教育の主専攻副専攻で学んでいる)

○出席率90%以上であること

*出席率について:オンタイムで研修に参加し、毎回の振り返りシートを提出すること。

(録画受講の場合:録画動画の視聴をする。毎回の振り返りシートの提出をもって出席とみなす)

○課題をすべて提出すること

★上記の要件を満たした方には修了証書をお渡しします。

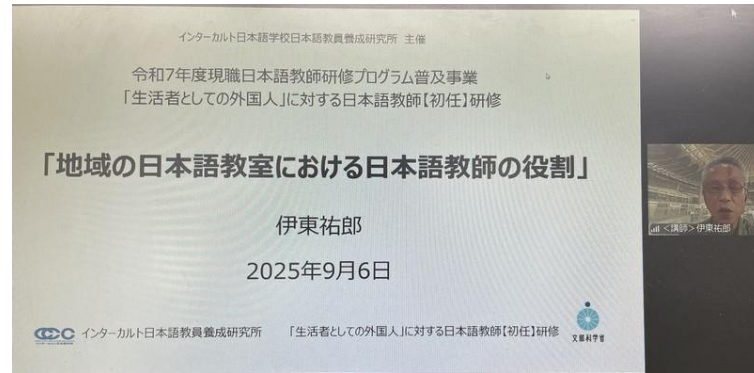




■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修の様子

【講師作成のスライドを共有しながらの研修の様子】



【課題を共有しながらの研修】

●タイトル（ 外国籍住民をサポート！ ）



●説明

ここは、市の国際交流センターで日本語支援のボランティア活動をしている場所です。このセンターは、市民が自由に交流し、使用できるスペースになっています。右の似顔絵は、センターに学習（遊び）にきている中国の小学生がボランティア活動のスタッフを描いたものです。

●タイトル2（ 中学生が作成した多言語社会啓発ポスター ）



●説明

開催されているボランティア日本語教室が場所や実施時間帯、対象者等の点で多様なことがわかる。日本語を学びたい在住外国人にとって近所の日本人と交流しながら日本語が学べる機会を提供している。



■ 各研修の概要

その他関連する取り組みについて

共通テーマ： 日本語教師が地域で活動するためのネットワークづくり



■ 各研修の概要

北海道ブロック

「明日から使えるヒントが山盛り！ ベテランから学ぼうスキル別の教え方」

《目的》

- ・授業や活動のヒントを得る
- ・教材作成のアイデアを得る
- ・教材の作成方法を知る
- ・話の引き出し方や、会話の広げ方のコツを得る
- ・参加者同士の交流の場を作る

＜体験会の内容＞

- ・講座「教材の解説」
- ・授業体験（30分×2クラス）
クラス 漢字初級・読み書き初級
漢字中級・読み書き中級
- ・質問タイム

＜参加者＞参加者：18名 日本語教師、日本語学習支援者など
参加者：26名 日本語学習者

文部科学省委託事業令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修

日本語教師のための「生活者に対する日本語学習支援」体験会

**明日から使えるヒントが山盛り！
ベテランから学ぼう
スキル別の教え方**

参加
無料

日時：9月21日（日）10:00～12:00
（受付開始 9:30）

場所：ホテルリソル函館（函館市若松町6-3）

対象：日本語教師、日本語学習支援者
日本語学習支援に関心のある方

定員：30名程度（先着順、要申込）

申込：9月16日（火）20時まで

下記のURLまたは右のQRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/wtYjUT3Sppy3WwRa9>



＜体験会の内容＞

10:00～10:30 講座「教材の解説」
10:30～11:30 授業体験（30分×2クラス）
クラス
漢字初級・読み書き初級
漢字中級・読み書き中級
11:30～12:00 質問タイム

外国人学習者に
教えているところを
近くで見学！

質問して
疑問や不安を
解決！



主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所
共催：（一社）北海道日本語センター



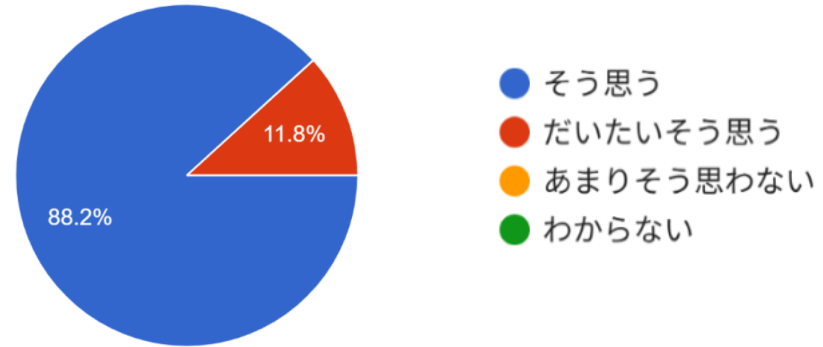


■ 各研修の概要

北海道ブロック

参加者事後アンケート結果

1. 全体的に見て、有意義な内容だった



2. 参加者アンケートから見えること

<参加した理由>

授業や活動へのヒント 13名
が欲しかった

日本語の実際の授業が 11名
見たかった

<参加後の感想>

授業や活動へのヒント 12名
を得ることができた

生活者の日本語教室の 11名
イメージが持てた

教材作成のアイデアを 10名
得た



■ 各研修の概要

東北ブロック

「日本語学習支援ネットワーク会議 2025 in 福島 ～日本語でつながる、広がる～」

＜目的＞

主に福島県内の地域日本語学習支援を取り巻く多様な関係者（外国人、就労、学校、国際交流など）が集まる場を設け、関係者のより大きなネットワークづくりを図る。

＜プログラム＞

福島県からの報告「福島県における日本語教育の推進に関する基本的な方針」

外国人との座談会「外国人からみた日本の暮らし」

分科会1「子どもにとっての『居場所』のチカラ
～つながる・わかる・みとめあう～」

分科会2「日本で介護職員として働く外国人と日本語」

分科会3「日本語教室を体験～ゆるっと話そう！暮らしのアイデア」

＜参加者＞国際交流や地域に暮らす外国人の日本語教育に関心のある方

75人（外国人住民含む）

主催 「日本語学習支援ネットワーク会議 2025 in 福島」実行委員会、インターカルト日本語学校

共催 (一社) ふしま多言語フォーラム、東北日本語教室

後援 福島県、(公財) 福島県国際交流協会、福島市国際交流協会、福島大学、(特活) ビーズふしま、(一社) 福島県老人福祉施設協議会、福島大学国際交流サークルCOLORS、北海道・東北ブロック日本語教師養成実施機関連絡協議会 (HoT-JeT)

令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業「生活者としての外国人」に対する日本語教師[初任]研修

日本語学習支援ネットワーク会議 2025 in 福島

日本語でつながる、広がる

日時 令和7年9月7日(日) 10:00～15:30 参加費 無料

会場 キョウワグループ・テルサホール（福島テルサ）（福島市上町4-25）


対象 国際交流や地域に暮らす外国人の日本語教育に関心のある方 60人

プログラム

- 10:00 開会及び趣旨説明
- 10:30 福島県からの報告「福島県における日本語教育の推進に関する基本的な方針」
- 10:50 外国人住民との座談会「外国人住民からみた日本の暮らし」
福島には、日本国内や海外のさまざまな地域から来て暮らしている人たちがたくさんいます。この座談会では、日本の社会・文化・言葉について、外国出身で福島に暮らす方々のお話を伺い、多様な文化を持ち寄って暮らす地域社会づくりのヒントを見つけてみます。
- 12:30 休憩
- 13:30 分科会1「子どもにとっての『居場所』のチカラ ～つながる・わかる・みとめあう～」
外国にルーツを持つ子どもやその保護者、地域で活動する支援者などさまざまな立場の方の話をとくに、つながりや安心が生まれる「居場所」のあり方やその魅力などについて意見交換を行います。
- 分科会2「日本で介護職員として働く外国人と日本語」
少子高齢化が進む日本社会において注目されている介護分野で働く外国人、事業所職員及び外国人介護職員のリアルな話をとくに、日本語教育の課題について意見交換を行います。
- 分科会3「ゆるっと話そう！暮らしのアイデア」
皆さんは日々の暮らしの中でどのような工夫をされていますか？日本人の方も外国人の方も一緒に日本語でおしあわせをしましょう。皆さんと話しあい、教えあう中で「暮らしのヒント」を見つけてみます。
- 15:30 閉会

お問い合わせ 実行委員会事務局
(一社) ふしま多言語フォーラム
☎ 024-905-1589 ✉ info@fjmf1.org

申込先 <https://forms.gle/Xtizt7YJ52GFJY97>



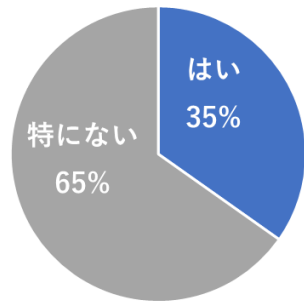


■ 各研修の概要

東北ブロック

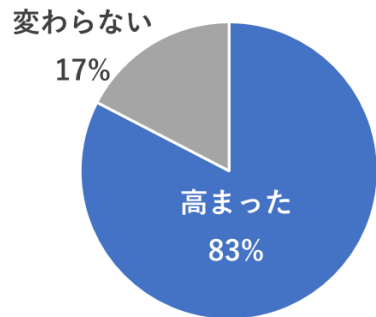
参加者事後アンケート結果

1.「外国出身住民、または外国出身住民の日本語学習に関わることで、何か新たに始めたことはありますか。」



- 勤務先の企業がある町の住民と技能実習生の交流イベントを始めている。
- 日本人と外国人が交流する場としての日本語によるおしゃべりカフェの開催している。
- 外国人を支援するところを紹介した。
- 登録日本語養成課程を受講しはじめた。
- 地域日本語教室に参加しはじめた。
- 外国人のニーズに合った学習を提供している。
- 団体同士で、来年度、コラボイベントを実施することにした。

2.「外国出身住民、または外国出身住民の日本語学習に関する関心は、以前よりも高まりましたか。」



- 伝わりやすい日本語を使って話してみようと思うようになった。
- 情報や取り組みを以前より意識してみることが多くなった。
- 必要性について改めて感じた。
- 外国人と一言ではくれない多様性があると感じた。
- 就労者に対する日本語教育について、関わりたいという気持ちがより高まった。
- 日本のさまざまな企業、業界で働く外国出身住民のために、どのような日本語学習支援が必要なのか、どういう学びの仕組みを提供できるかをより深く考えるようになった。



■ 各研修の概要

東京ブロック

地域で活動する生活者研修の修了生と話そう

《目的》

- 1 地域で生活者としての外国人に対する日本語教育を共に行う人と人とのネットワークづくり。
- 2 地域で活動している修了生と話すことから、参加者が自らの実践をふり返ったり、地域日本語教育の場へ一歩踏み出すきっかけになること。また、共に未来に向けて考えていける機会となること。

《内容》

- 実践発表(3人の修了生)
これまでと現在 / 未来に向けて
対面参加者交流

<参加者>対面 6名 オンライン 15名

文部科学省委託事業令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修

～日本語教師が地域で活動するためのネットワーク作り！！～

地域で活動する生活者研修の修了生と話そう！

参加費 無料

多様な視点を持つ参加者の話を聞き、交流することで新しい視点や地域への関わり方を見つけることができます。



栃木県地域日本語教育
コーディネーター
福田あゆみさん



茨城県地域日本語教育
コーディネーター
内田ひろさん



台東区地域日本語教育
コーディネーター
山藤弘子さん

日程 2025年12月14日（日）

時間 13:00～15:00

会場 対面：インターカルト日本語学校
オンライン：ZOOM

定員 各20名（先着順、要申込）

お問い合わせ
インターカルト日本語教員養成研究所
seikatsusha_info@incul.com 03-5816-5019
担当：谷口・内藤

主催：インターカルト日本語教員養成研究所

QRコードより
お申込みください



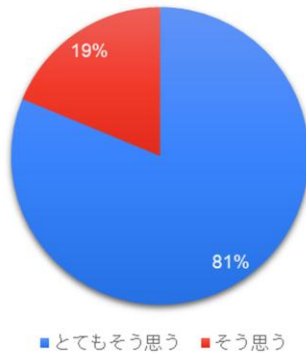


■ 各研修の概要

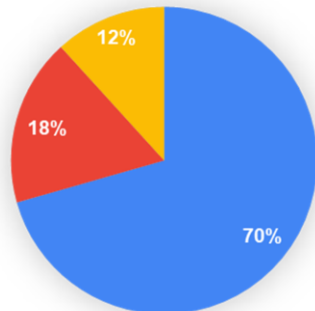
東京ブロック

参加者事後アンケート結果

セミナーの内容は興味や関心が持てるものでしたか



セミナーの内容にどの程度満足していますか



- ・ 今回のセミナーのおかげで、自分の立ち位置を再確認することが出来た。
- ・ 多くの方が試行錯誤されながらもチャレンジしていらっしゃることを知ることができた。
- ・ 自治体によって対応に大きな差があるということあらためて感じた。
地域間の格差を少なくしていくためにも地域を越えたつながりがこれから重要だと思った。
- ・ 本研修参加者がつながる場となった。
- ・ 修了生の現在の活動を知ること、参加者が自分自身の現在の活動を振り返り、今後の活動へ向けての気づきを得る機会となった。

■ とても満足している ■ 満足している ■ どちらとも言えない



■ 各研修の概要

中国ブロック

「日本語教室の未来、誰とつくる？」

— 地域と社会を編み直す、新しい日本語教育のかたち —

《目的》

1. 地域の社会資源」として再定義

日本語教室を単なる「語学を教える場」から、多文化共生社会を支えるインフラ(社会資源)として捉え直す。

2. 連携のための思考枠組みの獲得

経験則だけでなく、行政や地域社会と対等に連携し、課題解決に向き合うための論理的な思考フレームワークを習得します。

3. スキル習得ではなく、見方の転換を重視

具体的な教授スキルの向上よりも、自身の活動を社会的な文脈の中に位置づけ直す「マインドセットの変革」を目指します。

《内容》

午前：講演 「デザインアプローチによる視点の共有」

午後：ワークショップ 「自教室を題材に地域連携を検討」

<参加者>41人/オンライン24名(外国人住民含む)

主催：インターカルト日本語教員養成研究所
文部科学省委託事業令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業

「日本語教室の未来、誰とつくる？」
— 地域と社会を編み直す、
新しい日本語教育のかたち —

地域の多様な担い手と共に、日本語教育を“社会をつくる実践の場”へと再定義し、デザインアプローチを手がかりに教室の新たな未来を描きます。

2026年1月12日(月・祝) 10:30~16:00(予定)
場所：維新ホール(新山口駅から徒歩1分)
対象：地域の日本語教育を担う日本語教育関係者
日本語教員(教育機関、地域の日本語教室関係者等)
日本語教育支援者、日本語教育や地域の外国人支援に関心のある方等
参加費：無料 定員：30名

午前の部 10:30~12:00(オンライン視聴可能：ハイブリット)
講演「デザインアプローチで教室の未来を描く」
• 日本語教室を「教える場」から「地域と共に価値を生み出す場」へ。本講演では、行政や企業、教育現場で実践されてきたデザインアプローチの考え方をもちに、地域の課題を共有しながら新しい日本語教育のかたちを構想します。現場の実例を交えながら、教室が社会とどのように結びつき、持続的な学びと共生を生み出せるのかを考えます。

午後の部 13:00~16:00(対面のみ)
ワークショップ「連携の糸口を見つける実践」
• 午後のワークショップでは、実際の日本語教室を題材に、地域の社会資源との連携の糸口を探ります。教室の強みや課題を棚卸しし、地域との協働を通じて何ができるかを、グループで具体的にアイデア化します。最後はそれぞれの教室の「未来像」を共有し、実践につながる第一歩を描きます。

講師・ファシリテーター
橋本直樹氏
(Kumanomics代表)
平山由佳氏
(九州経済産業局/一般社団法人STUDIO POLICY DESIGN)

小さなお子様向けの託児サービスを準備しております。詳細はお尋ねください

インターカルト日本語教員養成研究所
お申し込み： <https://forms.gle/d8RC6qaWR4jBJeFs8>
seikatsusha_info@incul.com
担当：谷口・菅波



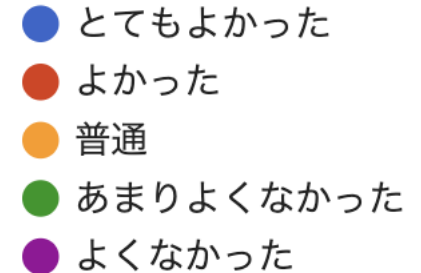
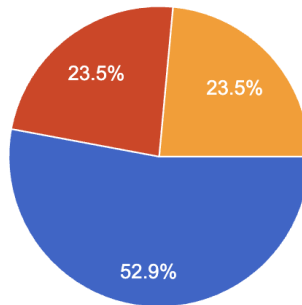


■ 各研修の概要

中国ブロック

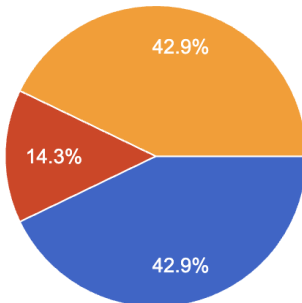
参加者事後アンケート結果

参加者による全体評価
(午前の部)



- 日本語教師も地域の課題をよく観察し、その解決につながる教室の場や活動内容をデザインする力がますます大事になったと実感させられました。
- 視点を変えたら、いろいろな方との連携が生まれ、新しい形ができると思ったから

参加者による全体評価
(午後の部)



色々な立場の方の意見を聞くことにより、一方向でしか見えていなかったものが、いろいろな方向から見えるようになった。また、今活動されている方の弱み、強みもわかった



■ 各研修の概要

九州ブロック

「地域日本語教育×市民活動のはじめかた」 一なにもものでもない私の想いをカタチに変える

《目的》

「地域の多文化共生に関わる独自の活動をやってみたいけれど、自分の立場で何ができるのか」「すでに活動を始めているけれど、続けることの難しさを感じる」という悩みはありませんか。このたび、同じ悩みを持ちながらも地域日本語教育に関わる団体を立ち上げたり、活動を続けたりしている全国の日本語教師4名が、パネルディスカッション形式で、そのリアルを意見交換します。また登壇者も含めた参加者同士の交流の時間もあり、みなさんの次の一歩を後押しします。

《内容》

当日のパネルテーマ
4人の登壇がこのテーマについて話をし、会場との意見交換を実施

活動のはじめの一歩	仲間をどうやってつくったの？	活動費はどうするの？
どうやって参加者を集めている？	こんな活動が好評だった！	団体をつくるメリット、デメリット
活動を継続するための工夫	行政関係者じゃない立場で何ができる？	行政とどのように連携する？

<参加者> 48人

主催 インターカルト日本語教員養成研究所
文部科学省委託事業令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修
九州ブロック、シンポジウム&交流会

文部科学省
CCO
Cultural Communication Office

地域日本語教育×市民活動のはじめかた 一なにもものでもない私の想いをカタチに変える

「地域の多文化共生に関わる独自の活動をやってみたいけれど、自分の立場で何ができるのか」「すでに活動を始めているけれど、続けることの難しさを感じる」という悩みはありませんか。このたび、同じ悩みを持ちながらも地域日本語教育に関わる団体を立ち上げたり、活動を続けたりしている全国の日本語教師4名が、パネルディスカッション形式で、そのリアルを意見交換します。また登壇者も含めた参加者同士の交流の時間もあり、みなさんの次の一歩を後押しします。

パネルのテーマ例

こんな活動が好評だった！	活動費はどうするの？	どうやって参加者を集める？
活動を継続するための工夫	行政関係者じゃないけど何ができる？	どんな活動からスタートした？

当日は9つのテーマから参加者のみなさんの聞きたいことに答えていきます

登壇者

 下田まり子 福島県 (日本語となり 代表)	 一氏卑人・長野県 (地域日本語教育 コーディネーター)	 本田依也佳・鹿児島県 (きりしまにほんご きょうしつ 代表)	 宮田あゆみ・愛媛県 (にほんご町内会 代表)
---	--	---	--

シンポジウム終了後のつながり

本シンポジウム終了後、ご参加くださった方の中でご希望の方は登壇者を含んだメーリングリストにご参加いただけます。メーリングリストでは、みなさんが取り組みを行う中で、ふつかったところなどを相談でき、登壇者からヒントをもらえます。

日時：2026年1月10日(土) 14時00分～16時00分
場所：博多バスターミナル 第1ホール (JR博多駅【博多口】から徒歩1分)
料金：無料
定員：40名～50名 (申込者多数につき増員しました。関心のある方はどなたでも参加可)
お申込み先：<https://forms.gle/5VsEACAgePywsvFp6>
お問い合わせ先：seikatsusha_info@incul.com、03-5816-5019 (担当：谷口・菅波)

お申し込み用QRコード





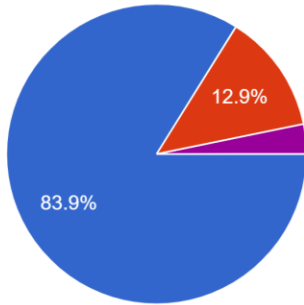
各研修の概要

九州ブロック

参加者事後アンケート結果

本シンポジウムを通して、市民活動として地域日本...て、学びや気づきを得ることができましたか。

31件の回答

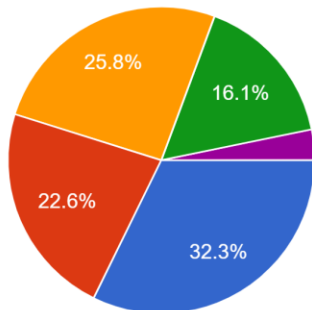


- できた
- まあできた
- どちらとも言えない
- あまりできなかった
- できなかった

- ・信頼関係を築くためにはまずは足で動く、情報発信をする、競合しないなど。
- ・思いつくことは、とりあえず何でもやってみるという熱意に感銘を受けた。民間と行政の運営の違いがよくわかった。
- ・市民活動の目的を明確にするには、今後長期的に日本人がどう生きていくかある程度はっきりさせる必要あり、それに基づいて今後外国人に対しどうしていくのが最善かは見つからないと思います。
- ・よく準備されたシンポジウムでした。組織する側の現実に起こる問題点等取り上げてくださったので、これからのボランティア活動へのよい刺激になりました。

本シンポジウムを通して、参加者とのつながりを作ることができましたか。

31件の回答



- できた
- まあできた
- どちらとも言えない
- あまりできなかった
- できなかった

- ・参加者が自由に話せる時間が少なかった。また席に座ったままだと動きが止まるので同じメンバーとの会話になってしまった。
- ・グループとなった方々と、名刺交換させてもらい、それぞれの立場での事情をお聞きすることができ、有意義でした。
- ・パネラーの方々と繋がることもいいとは思いますが、それより現場でモヤモヤを抱えていながら動くことがきでない(どう動いたらいいのか迷っている)参加者同士が繋がれる時間をもっと作ってほしかったと思います。
- ・最後に20分くらいで近くに座ってた人とのつながりできて良かった。この20分の時間が一番充実してた時間だった。



■ 受講者数及び修了者数の向上に対する取組

募集方法 日本語教師【初任】研修

- HP、Facebookでの広報
- 日本語教育関係掲示板に掲載
- 国際交流協会、日本語教育機関等へのメール配信
- 各ブロックが責任を持って、関連機関等への広報活動
- インターカルト養成講座連携協定校へ広報活動協力依頼
- 過去の養成講座修了生・生活者受講生への広報活動協力依頼
- 文科省からのメールの依頼

募集方法 その他関連する取り組み

- 今年度受講生への告知
- HP、Facebookでの広報
- 日本語教育関係掲示板に掲載
- 各ブロックの地域での広報活動
- 過去の生活者受講生への告知
- 地域の国際交流協会等に後援の依頼
- 日本語ジャーナル記事掲載

主催：インターカルト日本語教員養成研究所

文部科学省委託事業
令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業

「生活者としての外国人」に対する
日本語教師【初任】研修

2025年8月23日(土)開講

全18回 (8/23-1/24) 全90時間 (ライブ研修+課題)
※初回はオンライン受講可

対象 登録日本語教員
日本語教師養成講座420時間修了者
日本語教育能力検定試験合格者
生活者への活動経験が0-3年程度の方

受講料 20,000円(税込)
定員 100名

共催
北海道 一般社団法人北海道日本語センター
東北 一般社団法人くししま多言語フォーラム
東北 道庁日本語推進課
中国 インターカルト育成協立立大学連携協定校
九州 NPO多文化共生プロジェクト

お問い合わせ
インターカルト日本語教員養成研究所
〒110-0016 東京都港区2-20-9
03-5451-5019 www.inclc.com
担当：谷口

申込締切 (8/21) 18時
QRコードよりお申込みください

内容

「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力を「日本語人材の養成・研修の在り方について」(機会)内にある教育内容を基に養成します。

地域における日本語教育について知見を有する講師陣による多角的な視点から、日本語教師が扱う役割、必要な知識、技能、姿勢を学びます。また、各地域の課題や実践を学び、共に考えます。

「日本語教育の参画時」及び「生涯Care」を研修の中で学び、教育実践として活用できるようにすることを目標とします。

研修資料は、北海道、福島、東京、山口、福岡の連携による新たなネットワークを基盤としてを背景とした「日本語教師が地域で活動するためのネットワーク作り」のセミナーを対面とハイブリッドで開催します。

日程

★全18回(土曜日) 9:30~11:00 11:15~12:45	2026年
2025年	(1月) 1/10、1/17、1/24
(8月) 8/23、8/30	
(9月) 9/6、9/13、9/27	
(10月) 10/4、10/18、10/25	
(11月) 11/1、11/8、11/15、11/22、11/29	
(12月) 12/6、12/13	

○全ての研修を修了しますので、欠席した研修は別途で受講できます。(グループワークの時間は除く)
★新しいスケジュールは、HPにてご確認ください。

講師

【生活者に関する日本語教育】
高野裕子 (専攻学校連携推進人 日本語教員養成研究所 専攻学校)
伊藤美穂 (国際交流協会 専攻学校連携推進人/コーディネーター/英語研修員 日本語教員養成研究所 専攻学校)
出崎早苗 (インターカルト日本語教員養成研究所 専攻学校)
【研修コーディネーター】
山田智久 (関西学院大学外国語学部 専攻学校)
【多文化共生】
藤原さとみ (特定非営利活動法人 国際連携市民中心 (CINGA) コーディネーター)
長崎晴香 (特定非営利活動法人まほと21学際実践教育ネットワーク/コーディネーター)
【研修支援】
藤原さとみ (特定非営利活動法人 国際連携市民中心 (CINGA) 理事・日本語教育コーディネーター)
伊藤美穂 (国際交流協会 専攻学校連携推進人/コーディネーター/英語研修員 日本語教員養成研究所 専攻学校)
出崎早苗 (特定非営利活動法人まほと21学際実践教育ネットワーク/コーディネーター)
藤原さとみ (特定非営利活動法人 国際連携市民中心 (CINGA) 理事・日本語教育コーディネーター)
伊藤美穂 (国際交流協会 専攻学校連携推進人/コーディネーター/英語研修員 日本語教員養成研究所 専攻学校)
出崎早苗 (特定非営利活動法人まほと21学際実践教育ネットワーク/コーディネーター)
【研修資料】
神野幸一 (筑波大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学 教授)
大井裕子 (一般社団法人北海道日本語センター 理事)
藤原さとみ (一般社団法人北海道日本語センター 理事)
出崎早苗 (一般社団法人くししま多言語フォーラム 理事)
谷口千太郎 (NPO多文化共生プロジェクト 代表、福島県・地域日本語教育コーディネーター)
藤原さとみ (地域日本語教育推進アライアンス)

QRコードよりお申込みください

申込締切：2025年8月21日(木)
★希望者多数の場合は先着順となります。



■ 受講者数及び修了者数の向上に対する取組

受講者数向上の取り組み

- ・SNSを使っての広報活動、定期的に発信
- ・全国の日本語学校、国際交流協会へのメールでのご案内
- ・告知の案内を事前に準備し、契約成立後にすぐに広報活動の開始
- ・インターカルト養成講座の受講生、生活者研修の修了生へ広報活動の協力依頼
- ・チラシ、送付メールに「オープンバッチ授与」の案内
- ・福島、山口、福岡、沖縄の連携協定校に広報活動の協力依頼

修了者数向上の取り組み

- ・初日、オリエンテーションで修了要件について、オープンバッチについての詳細説明を実施
- ・毎回の研修の出席状況と振り返りシート提出の確認。期日までに提出の無い受講生にはメールでその旨の連絡と提出依頼
- ・課題については、提出期限日に提出状況の確認。期日までに提出の無い受講生にはメールでその旨の連絡と提出依頼
- ・研修の後半に入るところに、連絡のない受講生に対して、振り返りシートの提出状況と課題の提出状況を再度確認し、修了要件と共にメールで連絡と提出依頼
- ・研修終了後に、修了要件を満たさない受講生に対して、提出が必要な課題、振り返りシートの詳細の連絡と提出依頼

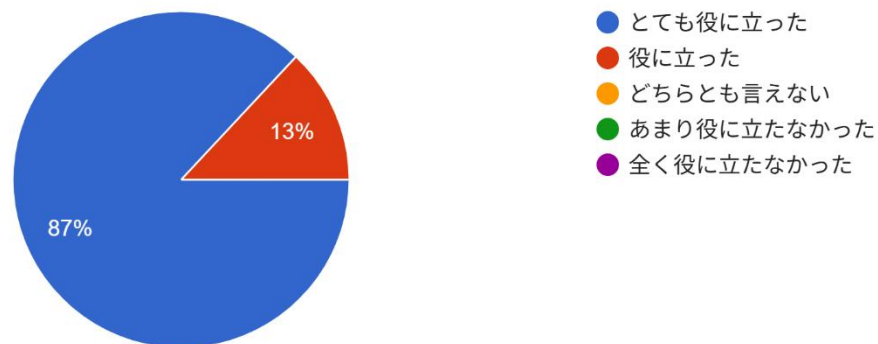


■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果①

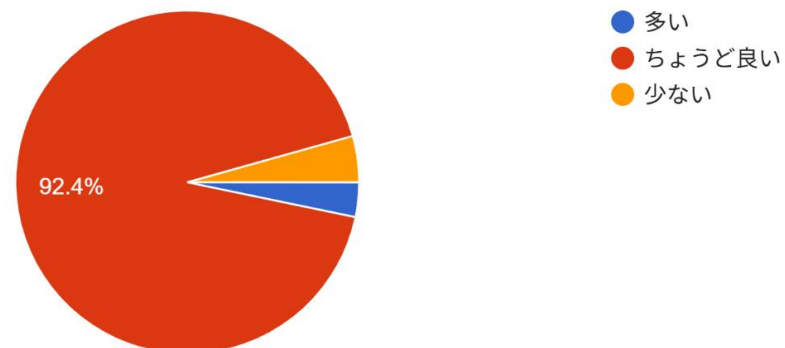
長い研修、お疲れさまでした。18回の研修を受講していかがでしょうか。

92件の回答



課題の量はいかがでしたか（3回）

92件の回答





■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果② 92名回答

どの研修が役に立ちましたか。	
日本語教育を取り巻く現状と変化	48.9%
地域の日本語教室における日本語教師の役割	64.1%
地域の活動における「日本語教育の参照枠」	59.8%
「生活者」に関わる日本語教師の姿勢～学習活動から考える～	64.1%
「生活者としての外国人」のための教材・教具のリソースと著作権	58.7%
「生活者としての外国人」の“声”を聞く—“引き出す力”を支える聞き方と、言語教育の新しい役割—	58.7%
[日本語教育の参照枠]に基づく教室活動—「生活Can do」・バックワードデザインを理解する—	70.7%
多文化共生のまちづくりと地域日本語教育	56.5%
北海道の取組み「北海道における日本語学習支援の取組み」	55.4%
東北の取組み「地域とつながる日本語教室の現場の話」	48.9%
九州の取組み「学習者のことばを引き出し、深くつながるための聞く力」	63.0%
日本語教育におけるICTの活用と日本語教師の役割	72.8%
「難民への日本語教育～さぽうと21での実践から～」	57.6%
外国人保護者の言語課題(子育ての日本語)	60.9%
何のために地域日本語教育をするのか?	65.2%
「多文化共生と生活者支援における日本語教師の役割～CINGAでの実践から～」	79.3%
振り返りと日本語教師のこれから	47.8%



■ 受講生からの評価

【研修前】と【研修終了後】「自分自身のことを客観的に見てみようシート」を受講生に記入してもらい、変化を自分自身で確認してもらう

日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力を基にシートを作成

日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力

表2

	知識	技能	態度
日本語教師【初任】（生活者としての外国人）	<p>【1 「生活者としての外国人に対する指導の前提となる知識」】</p> <p>(1) 地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。</p> <p>(2) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。</p> <p>(3) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。</p> <p>【2 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。</p> <p>(5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>(6) 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するというを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>(2) ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。</p> <p>(3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。</p> <p>(4) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を引き出すための教育実践を行うことができる。</p> <p>【2 成長する日本語教師になるための技能】</p> <p>(5) 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。</p> <p>【3 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(6) 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者より良い関係を構築できるよう促すことができる。</p> <p>(7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。</p>	<p>【1 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確に捉え、その個性と学びに向き合おうとする。</p> <p>【2 学習者に対する態度】</p> <p>(2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。</p> <p>(3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。</p> <p>【3 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。</p> <p>(5) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワーメントとしての日本語教育を実践しようとする。</p>

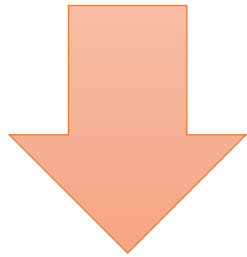


■ 受講生からの評価

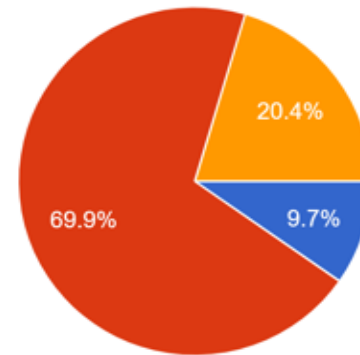
顕著に変化がみられた項目

《成果》 【1.「生活者としての外国人」に対する教育実践の前提となる知識】
(3) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。

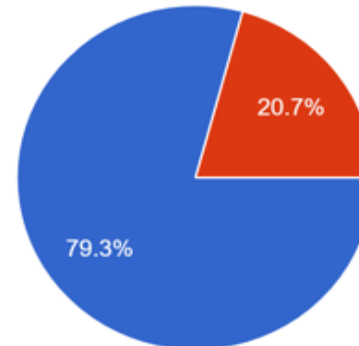
【研修前】103名回答



【研修終了後】85名回答



● 理解している
● 少し理解している
● 理解していない



● 持っている
● 少し持っている
● 持っていない



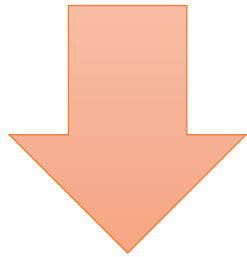
■ 受講生からの評価

顕著に変化がみられた項目

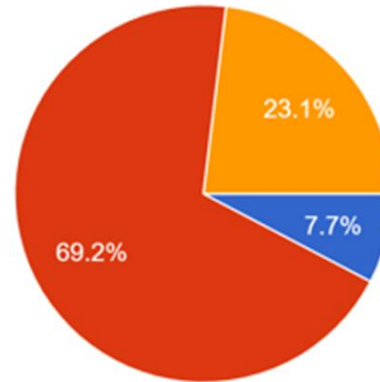
【2.日本語の教授に関する知識】

(5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標・内容・方法についての知識を持っている。

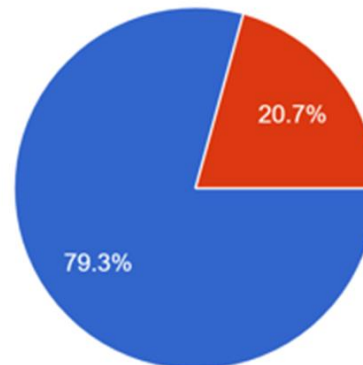
【研修前】103名回答



【研修終了後】85名回答



● 持っている
● 少し持っている
● 持っていない



● 持っている
● 少し持っている
● 持っていない



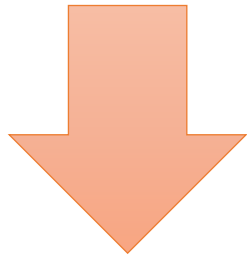
■ 受講生からの評価

顕著に変化がみられた項目

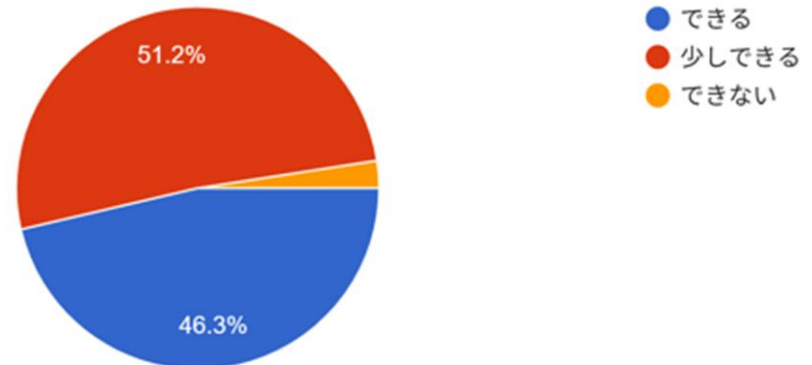
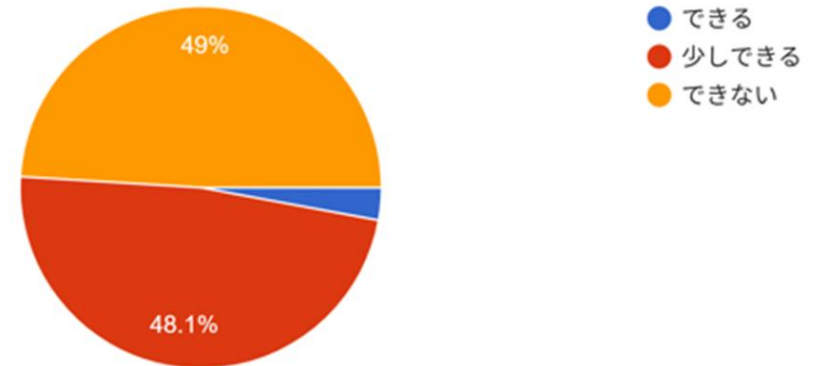
【3. 社会とつながる力を育てる技能】

(3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域の資源を活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。

【研修前】103名回答



【研修終了後】85名回答





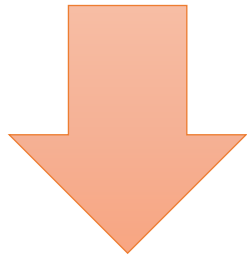
■ 受講生からの評価

顕著に変化がみられた項目

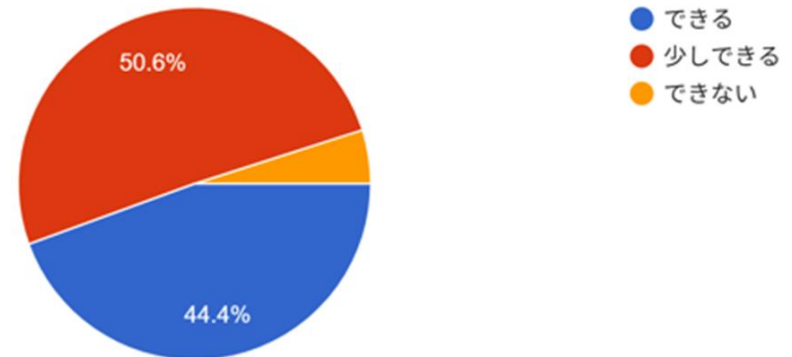
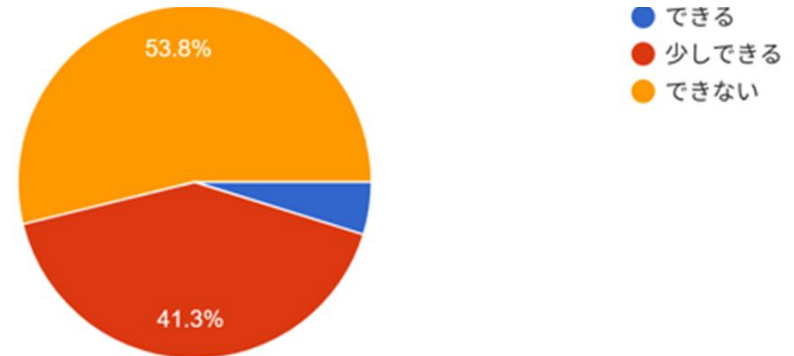
【2. 成長する日本語教師になるための技能】

(7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。

【研修前】103名回答



【研修終了後】85名回答





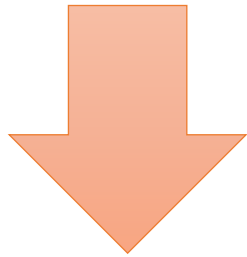
■ 受講生からの評価

顕著に変化がみられた項目

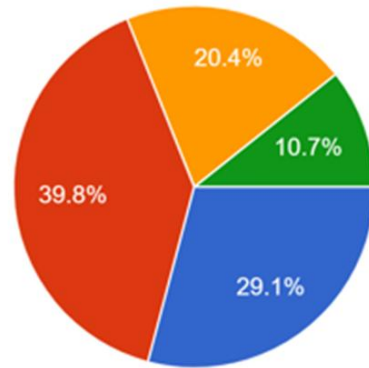
【3 文化多様性・社会性に対する態度】

(5) 地域社会の多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワメントとしての日本語教育を実践しようとしている。

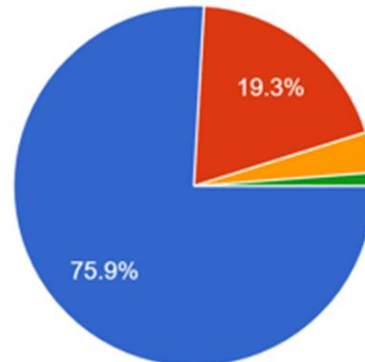
【研修前】103名回答



【研修終了後】85名回答



- 実践しようとしている
- 少し実践しようとしている
- あまり実践しようとしていない
- 実践しようとしていない



- 実践しようとしている
- 少し実践しようとしている
- あまり実践しようとしていない
- 実践しようとしていない



■ 受講生からの評価

研修を終えての感想

- ・今回の受講は、「とても良い講師陣のお話が聞ける研修」と紹介してくれたことがきっかけだったが、その言葉どおり、とても有意義な研修となった。散在地域で活動する私たちにとって、政府の提示する日本語教育に関する新しい情報の収集や研究者の話聞くことはもとより、地域で活動する、または奮闘する方たちの活動の様子を知ることはとても重要である。
- ・また、全国で活動している日本語教師と話し、各地域の現状を知ることも必要である。その点において、日本語教育だけでなく、共生社会にフォーカスした幅広い講座を提供していただいた主催者の皆様に感謝している。
- ・対面ではない継続的な研修ということで、色々な不安があったが、対応もとてもスムーズで何不自由なく受講することができてとてもよかった。何より講師の方がみんな外国人の主体性や同じ地域住民という目線、また教師として学び変化しなければという一貫した考えをお持ちの方ばかりで、本当にこのような研修こそ日本語支援者に届いてほしいものだと感じた。
- ・この研修で学んだことを次は自分が周りにきちんと伝えられるように広めていきたいと思った。
- ・外国人の方の声、気持ちを「聞く力」というのを大切に、自分が携わっている自治体からこの学びを広げていきたい。
- ・全国の状況を知れたのもいい刺激になった。地域の日本語教育だからこそ、他の地域とのこのようなやりとりの機会があるのは必要だと感じた。
- ・事務スタッフの対応：とても丁寧で優しい対応をありがとうございました。受講者もプレッシャーを感じることもなく講義を受けることができたと思います。
- ・ZOOMの研修について：地方に住んでいる私にとって、ズームでの講義は欠かすことはできません。また、トラブルもなく快適な環境で受講できたと思います。
- ・仕事の都合で土曜日に参加することがなかなか難しかったのですが、動画を視聴するたびにスタッフの皆様の明るい雰囲気「がんばろう」と思わせていただきました。



■ 成果と課題

評価委員会から 成果課題について

【評価の項目】

①カリキュラムの構成

- ・アンケート結果から、研修内容についての満足度は高かった。
- ・日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求められる資質・能力についての研修前、研修後に実施した「自分自身のことを客観的に見てみようシート」の結果から、「知識・技能・態度」の全てに改善が見られた。

②運営・実施の体制

○広報について

- ・契約役成立後にすぐに広報を開始し、幅広く広報活動を実施した結果109名の応募があった。

○研修のZOOMについて

- ・録画で視聴できることはプラスの要素ではあるが、リアルタイムの受講が半分くらいであった。土曜日は地域で活動している受講生も多いので、録画視聴があることで学びの場を提供できるはできた。

【評価委員からの提案】BORでの受講生同士の情報交換がとても役にたったとの意見も多くあるので、来年度はリアルタイム参加のルールを作ることを提案する。

○受講生の修了状況

- ・今年度の修了者率は84%であった。

【評価委員からの提案】さらに増やすために、初回のオリエンテーションの時に、修了要件のことオープンバッチのこと、研修参加者の役に立った点など、詳しく伝えていく。また、途中の段階で伝えるなど、繰り返し受講生に話をしていくことを提案する。



■ 成果と課題

評価委員会から 成果課題について

④ その他関連の取り組みについて

【評価委員からの提案】今年度実施した各ブロックのその他関連する取り組みに関して、対面での実施(2ブロックハイブリット)であったが、受講生が参加できる環境を作ることを提案する。録画をして、受講生全員が見られるように工夫することを提案する。

⑤ ネットワークづくり

【評価委員からの提案】課題にあったネットワークづくりに関しては、受講生がどのようなネットワークを希望しているかなど調べた上で、どのようなネットワークづくりを目指すか、来年度、ネットワークづくりに向けて準備を進めることを提案する。

